

# 株主の皆様へ

## 第88期 報告書

2012年4月1日  2013年3月31日

トップインタビュー

マテリアルの知恵を活かし、持続的成長を実現



代表取締役社長

**仙田真雄**

### Q1. 第88期(2012年度)の業績の概況について お聞かせください。

まず当社を取り巻く事業環境から申しあげますと、個人消費の底堅さや米国経済の回復基調に加えて、いわゆる「アベノミクス効果」による円高是正・株価回復の動きもあり、年明け以降は景気回復の兆しも見えてまいりましたが、一年を通して見れば、欧州金融危機や中国の成長鈍化と日本製品の販売減少、電子材料市場の低迷継続、そして非鉄金属価格の低迷等厳しい状況が続きました。

こうした厳しい事業環境の中で、2012年度の売上高は前期比3・2%減少の4,172億円、経常利益は前期比15・5%減少の161億円、当期純利益は前期比14・1%減少の99億円となりました。

#### 連結業績ハイライト

|      |          |       |        |
|------|----------|-------|--------|
| 売上高  | 4,172 億円 | 経常利益  | 161 億円 |
| 営業利益 | 165 億円   | 当期純利益 | 99 億円  |

contents → トップインタビュー ..... 1

→ CLOSE UP  
→ 三池亜鉛製錬100年の歩み ..... 5

→ 第88期レビュー データ編 ..... 6

→ 第88期レビュー ニュース編 ..... 7

## Q2. 各事業セグメントの状況は いかがでしたか？

機能材料事業では、電池材料と二輪車排ガス用触媒の増産・増販対応を進めました。電池材料では、広島県にある竹原製煉所で車載向けリチウムイオン二次電池の正極材料であるマンガン酸リチウム(LMO)の量産を下半期から開始いたしました。二輪車排ガス用触媒では、日本、中国、タイ、インドという4拠点に加えて、インドネシアとベトナムに新たな生産拠点を設立しました。ただし、LMOについては、電気自動車用の電池が主な用途でありますが、現在のところ電気自動車の本格普及が想定以上に遅れている状況で、竹原製煉所のLMO工場の稼働率は残念ながら2〜3割程度にとどまっています。また、二輪車排ガス用触媒のアジア市場も、インドネシアにおけるローン規制の影響等を受けて需要が減少し、減益要因となりました。

金属・資源事業は、非鉄金属価格の下落と在庫要因により低迷していましたが、年明け以降の円高は正等を受けて前年並みの利益となりました。また、パンパシフィック・カッパー株式会社を中心とって開発しておりますチリのカセロネス銅鉱山では電気銅の生産が始まりました。現在さらに銅精鉱・モリブデン精鉱の生産に向けた取り組みを進めております。

## Q3. 第89期(2013年度)から始動する3か 年中期経営計画について説明願います。

中期経営計画については当初、2012年度を初年度とする3か年の中期経営計画(12中計)としてスタートする予定でした。ところが、東日本大震災やタイの洪水の発生、欧州金融危機、新興国の成長鈍化、超円高、非鉄金属相場の低迷等、2011年は事業環境の変化が相次ぎ、当社も急速な業績悪化に見舞われたことから、足もとの土台を固めることを優先し目標設定を先送りすることといたしました。しかし一方で、2012年度は機能材料、金属・資源、電子材料、素材関連の4つの事業本部に三井金属アクト株式会社を加えた5事業体の「自立自走」を進めながら、12中計で検討した成長戦略を推進してまいりました。

こうした経緯から、今回発表した2013年度を初年度とする3か年の中期経営計画(13中計)の基本となる骨格や成長戦略は、2012年度からスタートしております。12中計の目標設定を先送りした時点と比較して、現在の事業環境が大きく改善したわけではありません。しかし、中期的な視点で捉えた経営の打ち手展開は必須であります。メリハリある「攻め」と「守り」を推進し、厳しい環境を乗り越えて成長していくための打ち手を講じてまいります。

電子材料事業は、ハイエンド製品であるキャリア付極薄銅箔(Micro Thin™/マイクロナン)が、スマートフォンやタブレット端末の市場拡大により右肩上がりに売上を伸ばし、収益改善につながりました。なお、厚さ1〜5ミクロンのマイクロナンは、現在、業界のデファクトスタンダードになっております。こうした高付加価値製品の強化と並行して、汎用の電解銅箔はマレーシアや台湾等アジアでの生産にシフトし、さらなる収益改善を図っております。

素材関連事業は、薄膜材料がタブレット端末向けや中国における液晶テレビ向けの需要が好調でありましたが、他の各製品の需要は総じて低調でありました。新たな動きとしては、中国にセラミックス製品の製造販売拠点を設立しました。今秋の操業開始を目指しており、アルミニウム缶材等の生産に用いられるアルミ溶湯濾過装置(メタロフィルタ)を増産します。

自動車機器事業は、足もとの先ほども述べました中国における日本製品の販売減少を受けた日系の自動車メーカーの減産による影響が現れていま

## Q4. 先ほどお話に出た「攻め」と「守り」の 具体的な内容をお聞かせください。

「攻め」の要素として特に大きなものは、機能材料事業における積極展開です。電池材料においては、マンガン酸リチウムの容量・出力・寿命を高めつつ、次世代、次々世代製品の開発も視野に入れ、これから本格化する電気自動車市場にしっかり食い込んでいきます。自動車排ガス用触媒は、引き続きアジア新興国を中心に製造販売拠点を展開しながら、世界一のシェアを持つ二輪車市場だけでなく、さらに四輪車市場へも本格的に参入してまいります。

アジア新興国市場へのさらなる展開については三井金属アクト株式会社の自動車機器事業も同様です。モーターリゼーションの勃興が見込める地域で、地産地消の動きに対応したもののづくりを進めていきます。

また、金属・資源事業では、先ほども述べましたが、チリのカセロネス銅鉱山の鉱山開発が最終段階を迎えています。今後、銅精鉱・モリブデン精鉱の本格生産を通じて、13中計期間における業績への寄与が期待できます。

一方「守り」の面では、製品ライフサイクルが短期化する中で各事業のポジショニングを明確にし、的確な事業性判断をはかっています。また、今後の当社は、規模の大きな成長投資を実施する上で、

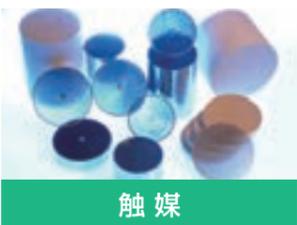
### ●「3か年の中期経営計画(13中計)」(2013年度~2015年度) 特に注力していく事業

## 狙うべき領域で拡大が期待できる4つの事業



資源

- 南米(チリ): カセロネス銅鉱山稼働
- 南米(ペルー): ワンサラ鉱山周辺部開発
- 北米(カナダ): ラドック・クリーク探鉱



触媒

- 新興国で拡大する触媒需要の取り込み
- 新規触媒材料の開発



電池材料

- リチウムイオン二次電池用LMO拡販、新規材料の開発
- 燃料電池用材料の開発



リサイクル

- 竹原: 熔融キルン(廃電子基板・有利原料増集荷・増処理)
- 竹原・神岡・上海等: 新規原料増集荷・増処理

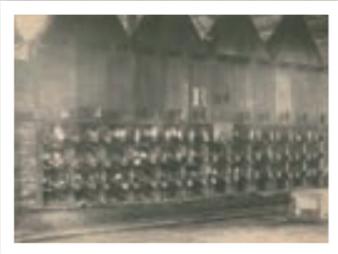


すが、2012年末までは極めて好調に推移しました。この好調は、この事業を展開する三井金属アクト株式会社のアジア生産シフトが奏功していることによるものです。2012年度においても 멕시코とインドネシアに製造販売拠点を設立しており、引き続き収益拡大に向けて最適な生産体制を構築してまいります。



# 三池亜鉛製錬 100年の歩み

～100年前、日本初の本格的な乾式亜鉛製錬を開始～



水平蒸留炉



大正期の大牟田亜鉛製錬工場



三池製錬株式会社のシンボル  
「横須太郎」(煙突)

従来以上にキャッシュ対策に力を入れていく必要があります。これには奇手妙手があるわけではなく、自助努力で可能な棚卸資産の圧縮をはじめとした愚直な打ち手で財務体質の改善を着実に実行する必要があります。

## Q5. 13中計初年度となる第89期(2013年度)の見通しはいかがでしょうか？

13中計の成長戦略に基づく各事業の取り組みの中には、カセロネス銅鉱山開発等2013年度中に投資をほぼ終えるプロジェクトもあります。ただし、それらが業績面に寄与してくるのは少し先になるでしょう。例えば、カセロネス銅鉱山について言えば、銅精鉱・モリブデン精鉱の本格生産は2014年からなる予定です。

2013年度に取り組みべきことと見通しを事業体ごとにお話しします。まず、機能材料事業では、特に電池材料と二輪車排ガス用触媒に注力してまいります。電池材料は、電気自動車向けの竹原製錬所LMO工場の稼働率向上と次世代材料の開発が課題です。一方で当社はハイブリッド車向けのニッケル水素電池用負極材料である水素吸蔵合金(MH合金)の生産も手掛けており、こちらは好調を維持する見込みです。二輪車排ガス用触媒は、インドネシアの新工場が4月から本格稼働してお

り、2013年度中の業績貢献が見込めると思っています。

金属・資源事業では、酸化亜鉛原料(リサイクル原料)比率向上による原料の多様化、竹原製錬所に設置した廃基板からの有価金属回収設備(溶融キルン)の稼働率向上等、リサイクル事業を強化してまいります。

電子材料事業では、マイクロシナや次世代の製品等の戦略製品の商品開発と拡販、汎用の電解銅箔生産のアジアシフト等により収益力強化に取り組んでまいります。

素材関連事業においては、それぞれの事業の状況に応じた施策により収益の最大化に努めてまいります。

自動車機器事業では、三井金属アクト株式会社 が昨年新設したメキシコの製造販売拠点が7月から操業を開始します。ドアロック事業世界一をゆるぎないものとするため、さらなるグローバル展開を検討し、事業を拡大してまいります。

2013年度の全般的な営業状況としては、足もとの実績プラスアルファといった水準で推移していくと見ており、売上高4,062億円、経常利益175億円、当期純利益は107億円を見込んでおります。

今からちょうど100年前、当社(当時は三井鉱山株式会社)は、日本で初めて乾式法による本格的な亜鉛製錬を三池の地(福岡県大牟田市)において開始しました。すなわち、当社は、大牟田亜鉛製錬工場において、岐阜県神岡鉱山の亜鉛鉱石を原料に水平蒸留法により製錬を開始し、1913年(大正2年)8月に第1号蒸留炉から初亜鉛を産出したのです。

その後、三池においては、1936年に亜鉛電解工場、1954年に豎型蒸留工場、そして1963年には豎型精留工場の操業を開始しました。さらに、1965年には鉱滓処理工場(MF炉)による亜鉛地金原料となる粗酸化亜鉛の生産を開始し、当社の神岡や彦島などの製錬所とともに、国内トップスメルターとして亜鉛地金等の生産を通じて日本経済の発展を支えてまいりました。

経済情勢の変化などにより、現在では三池において亜鉛地金の生産は行っておりませんが、豎型精留工場の精留塔における高純度酸化亜鉛の生産やMF炉による廃棄物処理と粗酸化亜鉛の生産などの事業を展開しており、100年前に灯した亜鉛製錬の火とその技術は、これからの100年を見据えて受け継いでまいります。

## Q6. 最後に株主の皆様へのメッセージを お願いします。

当社は「マテリアルの知恵を活かす」をスローガンに掲げ、これを実践することで事業を拡大してきた企業です。これからもそのDNAを受け継いで事業を育み、持続的な成長を実現してまいります。また、将来の飛躍に向けて、グローバル企業としての地歩をしっかりと固め、特に人材育成にも注力していく考えであります。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社事業への長期的なご支援をお願い申し上げます。



| 西暦   | 年号    | 三池亜鉛製錬の沿革                       |
|------|-------|---------------------------------|
| 1874 | 明治7年  | 三井組が神岡鉱山蛇腹平坑を取得し<br>鉱山経営を開始     |
| 1913 | 大正2年  | 大牟田亜鉛製錬工場の第1号蒸留炉から<br>初亜鉛を産出    |
| 1936 | 昭和11年 | 亜鉛電解工場操業開始                      |
| 1950 | 昭和25年 | 三井鉱山株式会社の金属部門をもって<br>神岡製錬株式会社創立 |
| 1952 | 昭和27年 | 三井金属製錬株式会社と商号変更                 |
| 1954 | 昭和29年 | 豎型蒸留工場操業開始                      |
| 1963 | 昭和38年 | 豎型精留工場操業開始                      |
| 1965 | 昭和40年 | 鉱滓処理工場(MF炉)による<br>粗酸化亜鉛の生産を開始   |
| 1966 | 昭和41年 | 水平蒸留炉休止                         |
| 1970 | 昭和45年 | MF炉にて製鋼煙灰を主とする<br>産廃処理事業開始      |
| 1975 | 昭和50年 | 亜鉛電解工場休止                        |
| 1982 | 昭和57年 | 三池製錬所を分離し<br>株式会社三井金属三池製錬所を設立   |
| 1986 | 昭和61年 | 豎型蒸留工場休止<br>三池製錬株式会社を設立         |
| 2013 | 平成25年 | 三池亜鉛製錬100周年                     |

### 用語解説

**大牟田亜鉛製錬工場**  
神岡鉱山の亜鉛鉱石を三池炭鉱の石炭を用いて製錬するため三池の地に設けられた製錬所。当社100%子会社である三池製錬株式会社の前身。

**MF炉**  
長年培った亜鉛製錬鉱滓処理の技術を活かした三井独自の亜鉛半熔鉱炉。現在では産業廃棄物処理と、粗酸化亜鉛等の有価金属の回収を行っており、環境保護と資源リサイクルによる循環型社会の構築に貢献している。

2013年

ベトナム・ハノイ市に二輪車排ガス用触媒の製造販売を行う当社100%出資子会社「Mitsui Kinzoku Catalysts Vietnam Co., Ltd.」を設立

**1月** ベトナムに触媒事業の製造販売拠点を設立  
2014年4月より量産開始予定

北米におけるアルカリ電池用亜鉛粉の製造販売子会社「Mitsui Zinc Powder Limited Liability Company」を、現地企業「Horsehead Corporation」に売却しました。引き続き、当社はメリハリある「攻め」と「守り」を推進し、コモデティ化製品の再建・見直しを行うておきます。

**11月** 米国のアルカリ電池用亜鉛粉製造販売会社を売却  
「コモデティ化製品の再建・見直しの環

三井金属アクト株式会社を「紹介しています」



当社CSRサイトにてご覧いただけます。  
三井金属 CSR 検索  
http://www.mitsui-kinzoku.co.jp/csr/

2012年

**10月** 「環境報告書2012」を発行  
グループの環境保全等にかかる積極的な取り組みをレポート

2011年度に推進した環境保全・労働安全衛生に関する活動についてまとめた「環境報告書2012」を発行いたしました。同活動の基本方針、体制、取り組み内容、成果をご報告し、特集として当社グループで自動車機器事業を担う三井金属アクト株式会社を「紹介しています」

**3月** 三井金属アクトがインドネシア拠点設立  
ASEAN地域におけるビジネスを拡大

ました。量産開始は2014年4月を予定しています。東南アジア有数の二輪車市場とされるベトナムで、今後の排ガス規制強化に伴い拡大が見込まれる需要を取り込んでいきます。

三井金属アクト株式会社は、新たな製造販売拠点として、インドネシア・カラワン県に「PT. Mitsui Kinzoku ACT Indonesia」を設立しました。本格的な操業開始は2013年9月を予定しています。需要拡大が見込まれる国内およびASEAN地域において、ビジネスの拡大を図ります。

**3月** カセロネス銅鉱山で電気銅を生産開始  
年間3万トンの生産を計画

JX日鉱日石金属株式会社および当社の共同出資による銅事業会社「パンパシフィック・カッパー株式会社」は、チリの「カセロネス銅・モリブデン鉱床開発プロジェクト」において、溶媒抽出電解採取法(SX-EW法)による電気銅の採取を開始しました。生産量は当初10年間の平均で年3万トンを見込んでいます。2013年度中には銅精鉱の生産も開始を予定します。



SX-EW プラントの全景

**用語解説** 溶媒抽出電解採取法(SX-EW法)  
銅鉱石に希硫酸を散布し、銅を浸出。その浸出液から銅イオンを抽出し、電解採取により電気銅を生産する方法。世界の鉱山銅生産量の約20%を占める。

**電気銅**  
電気精錬によって得られる高純度(純度99.99%以上)の銅。熱・電気の伝導率が高く、加工性に優れているため、主に電線や箔などに用いられる。

今後のIRスケジュール

|         |  |    |                   |                             |                    |
|---------|--|----|-------------------|-----------------------------|--------------------|
| 2013年7月 | 8月   | 9月 | 10月               | 11月                         | 12月                |
|         | 上旬<br>2014年3月期<br>第1四半期決算発表<br>アニユアルレポート<br>2013公開 |    | 下旬<br>環境報告書2013公開 | 上旬<br>2014年3月期<br>第2四半期決算発表 | 下旬<br>第89期上半期報告書発送 |

決算のポイント

**POINT 1** 電池材料の堅調な需要や円高是正等はあったものの、二輪車排ガス用触媒の販売減少や電子材料市況の低迷、中国市場における日本車販売の減少等が影響。この結果、売上高は前期比138億円(3.2%)の減収。

**POINT 2** 損益面では、営業利益は前期比43億円(20.8%)、経常利益は前期比29億円(15.5%)の減益。さらに固定資産除却損等の特別損失、税金費用等を計上した結果、当期純利益は前期比16億円(14.1%)の減益。

**POINT 3** 第89期については、売上高4,062億円、営業利益182億円、経常利益175億円、当期純利益は107億円を見込み、配当は3円を予定。

|       |          |               |
|-------|----------|---------------|
| 売上高   | 4,172 億円 | (前期比 3.2% 減)  |
| 営業利益  | 165 億円   | (前期比 20.8% 減) |
| 経常利益  | 161 億円   | (前期比 15.5% 減) |
| 当期純利益 | 99 億円    | (前期比 14.1% 減) |

※第89期の業績見込につきましては、2013年5月9日現在において入手可能な情報に基づき作成したものでありますので、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

セグメント別業績の概況

|                |                                 |                                |  |
|----------------|---------------------------------|--------------------------------|--|
| 機能材料<br>11.7%  | 売上高<br>566 億円<br>(前期比 8.0% 減)   | 経常利益<br>83 億円<br>(前期比 29.4% 減) | ハイブリッド車向けの水素吸蔵合金の販売堅調、マンガン酸リチウムの電気自動車向け用途への参入等があったものの、二輪車排ガス用触媒等は販売減少。経常利益は減益。 |
| 金属・資源<br>29.5% | 売上高<br>1,429 億円<br>(前期比 2.6% 増) | 経常利益<br>12 億円<br>(前期比 2.7% 増)  | 金属価格の下落があったものの、亜鉛需要が堅調に推移。経常利益はエネルギーコストの上昇等があったものの年明け以降の円高是正等もあり増益。            |
| 電子材料<br>14.7%  | 売上高<br>711 億円<br>(前期比 13.7% 減)  | 経常利益<br>26 億円<br>(前期比 87.4% 増) | 極薄銅箔の需要が堅調なものの、その他の製品は電子材料市況の低迷により需要低調。経常利益は製品構成の改善等により増益。                     |
| 素材関連<br>25.7%  | 売上高<br>1,241 億円<br>(前期比 8.4% 減) | 経常利益<br>31 億円<br>(前期比 6.0% 増)  | 薄膜材料のITOはモバイル機器向けの需要が増加し、中国の液晶テレビ向け市場も好調だったものの、その他の製品は概ね低調。経常利益は増益。            |
| 自動車機器<br>18.4% | 売上高<br>888 億円<br>(前期比 3.5% 減)   | 経常利益<br>62 億円<br>(前期比 22.1% 増) | エコカー補助金による需要増があったものの、新興国における自動車需要低迷や中国市場の日本車販売の減少等の影響あり。経常利益は最適生産体制の確立等により増益。  |

※各セグメントの売上高および経常利益はセグメント間の内部売上高または振替高を含んでいます。  
※グラフはセグメント別の売上高構成比を表しています。

## ホームページのご案内

当社ホームページでは、最新のニュースやIR情報など当社をご理解いただくための様々な情報を提供しております。



## 株主・投資家情報



三井金属

検索

<http://www.mitsui-kinzoku.co.jp/>

「個人投資家の皆さまへ」では、事業内容や専門用語の解説、株式事務手続きなどの情報をまとめてご紹介しています。



## 会社概要 (2013年 3月 31日現在)

商号 三井金属鉱業株式会社

(Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd.)

[呼称：三井金属/MITSUI KINZOKU]

本店 東京都品川区大崎一丁目11番1号

設立 1950年5月1日

資本金 42,129百万円

従業員数 連結 10,154名

単体 1,796名

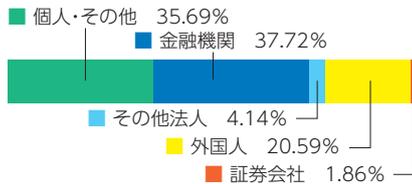
## 株式の状況 (2013年 3月 31日現在)

発行可能株式総数 1,944,000,000株

発行済株式総数 572,966,166株

株主数 53,651名

### 所有者別株式分布状況



### 大株主 (上位10名)

| 株主名                                      | 持株数 (千株) | 持株比率 (%) |
|--|----------|----------|
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)               | 42,482   | 7.43     |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)              | 38,346   | 6.71     |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)                 | 34,574   | 6.05     |
| 全国共済農業協同組合連合会                            | 23,291   | 4.07     |
| CBNY-ORBIS SICAV                         | 16,618   | 2.90     |
| 三井金属社員持株会                                | 11,744   | 2.05     |
| SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS | 6,525    | 1.14     |
| 三井生命保険株式会社                               | 5,986    | 1.04     |
| 資産管理サービス信託銀行株式会社 (年金信託口)                 | 5,470    | 0.95     |
| 三井金属取引先持株会                               | 5,463    | 0.95     |

※持株比率は自己株式(1,813,745株)を控除して計算しております。  
※記載持株数は、千株未満を切捨てて表示しております。

## 株主メモ

定時株主総会の議決権の基準日 3月31日  
 期末配当の基準日 3月31日  
 中間配当の基準日 9月30日  
 定時株主総会 6月下旬

株主名簿管理人・特別口座管理機関  
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社

同連絡先  
 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 TEL：0120-782-031 (フリーダイヤル)

### 公告の方法

電子公告とする。  
[\(http://www.mitsui-kinzoku.co.jp/\)](http://www.mitsui-kinzoku.co.jp/)  
 ただし、事故その他やむをえない事由によって電子公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行う。

### 〈株式事務のお取扱い〉

1. 未払配当金の支払のお申出先  
 左記三井住友信託銀行にお申し出ください。
2. 住所変更、単元未満株式買取等のお申出先  
 ① 証券会社へ株式をお預けになられている株主様は、お取引のある証券会社にお申し出ください。  
 ② 証券会社の口座へ株式をお預けになられていない(特別口座に記録されている)株主様は、左記三井住友信託銀行にお申し出ください。

三井金属鉱業株式会社

総務部 〒141-8584 東京都品川区大崎一丁目11番1号  
 TEL:03-5437-8240



環境に配慮した FSC® 認証紙と植物油インキを使用しています。